

科名 婦人科

対象疾患名 悪性軟部腫瘍

プロトコール名 GEM+DOC

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	...	8	9	...	15	...	21
1	点滴注	メイン	生食	500mL	ルートキープ 残破棄可	↓		↓					
2	点滴注	側管	デキサート 生食	6.6mg 50mL	30分かけて	↓							
3	点滴注	側管	グラニセトロンバッグ デキサート 又は	1mg 9.9mg	30分かけて			↓					
	点滴注	側管	パロノセトロン デキサート	0.75mg 9.9mg	30分かけて								
4	点滴注	側管	ゲムシタビン 5%ブドウ糖	900mg/m ² 100mL	30分かけて	↓		↓					
5	点滴注	側管	ドセタキセル 生食	70mg/m ² 250mL	60分かけて 壊死性抗がん剤				↓				

★1クール=21日

～MEMO～

催吐レベル3(30%以上90%未満)

day9～11にデキサート錠を朝、昼食後に4mg/回

<ドセタキセル>

調製時、完全に溶解、混和したことが確認できるまで緩やかに混和操作を繰り返すこと。

アレルギー好発時期:初回、2回目

投与開始から10分間はベッドサイドを離れない。

薬剤の特徴により1mL=20滴とにならないため滴下数を1.5倍にする。

(1hrで滴下する場合126滴/分)

<ゲムシタビン>

ゲムシタビンは必ず30分で投与(副作用増強防止のため)

禁忌:間質性肺炎、肺線維症のある患者、胸部への放射線療法との併用

血管痛の対処方法:

①静脈炎・血管痛を予防するために以下のことを考慮し、点滴の針を刺す。

・血流の良い太い血管をできるだけ使用する。

・毎回、できるだけ穿刺部位を変える。

・長く留置していた静脈、過去に静脈炎を起こした血管は避ける。

②点滴中は、以下のことを考慮し、投与する。

・点滴の入っている腕を予め加温し、血管を温めて広げ、血流を良くする。

・メインの生理食塩水の投与量を増やし、より希釈しながら投与する。

JCOG 1306

Jpn J Clin Oncol 2014;44(8)765-769

Feasibility and efficacy of gemcitabine and docetaxel combination chemotherapy for bone and soft tissue sarcomas

World Journal of Surgical Oncology(2016)14:306